

『安藤信哉展』によせて

安藤信哉は梅野コレクションの中心的存在の画家です。このたび、ご遺族からのお申し出により、安藤の油彩画9点をご寄贈いただきました。その披露を兼ね、当館収蔵品と個人所蔵のものも加えて「安藤信哉展」を開催いたします。

安藤信哉の作品の主な所蔵館は、茨城県近代美術館、千葉県立美術館、京都市美術館、それに東御市梅野記念絵画館です。実はもう一館静岡県のK美術館にたくさん収蔵されていましたが、残念ながら2012年12月でK美術館は閉館となり、作品はご遺族のもとに返還されました。今回の件は、そのご遺族から、是非梅野記念絵画館に収めてほしい、というお申し出をいただいたという次第です。安藤が活躍した頃の日展は個と個のつながりを重視した作品が主流でした。その中にあって、構成主義とでもいうか、描かれたものが響きあい調和した空間を作り上げる作風は、安藤独自のハーモニーを醸し出しています。

安藤信哉は画家としてだけでなく聾啞者の美術教育に尽くした功績により、1974年にヘレン・ケラー賞を受賞しています。今回の展覧会には、安藤信哉の教えを受けた聾啞の画家・大原省三（1940～1992）孫弟子にあたる安元亮祐（1954～）の作品も展示する予定です。ご高覧ください。

2019年 展覧会スケジュール

変更となる場合もございます

1 大展示室 ふれあい館	2 新規収蔵品 —色彩の魔術師— 安藤信哉展 2/15～3/31	3 4 5 6 生誕110年 菅野圭介展 4/7～6/23	第19回私の愛する 一点展 7/2～9/23
収蔵品整理 1/15～2/14	東信濃工芸作家展 2/15～2/28	燐々会 3/2～3/15	みまき絵画会 3/17～3/31
		NHK日曜美術館 放映の画家10人展 9/30～1/14	M氏セレクション 7/2～7/28

■2019年イベントスケジュール

2月7日(日) オープニング 講演会 13:30～

■同時開催

2月15日～2月28日 東信濃工芸作家展
3月2日～3月15日 燐々会
3月17日～3月31日 みまき絵画会

■施設情報、開館案内

東御市梅野記念絵画館 <http://www.umenokinen.com/>
〒389-0406 長野県東御市八重原 935-1 TEL0268-61-6161
FAX0268-61-6162 umenokinen@ueda.ne.jp

開館時間 午前9時～午後5時(4時30分迄にご入館ください)

入館料 600円(高校生以上) 団体割引500円(15名以上)

身障者割引、学校利用減免、減額制度もあります。

休館日 2月18、25日 3月4、11、18、22、25日

■アクセス

お車 練馬ICから2.5時間

◆関東、北陸方面から

上信越道東部湯の丸インターから15分

◆中部、関西方面から

長野道岡谷インターから新和田トンネル、R142号経由で約1時間

鉄道 東京から最速2時間

しなの鉄道「田中」下車、タクシー15分

◆関東、北陸方面から

北陸新幹線「上田」で、しなの鉄道乗換、田中下車。

◆中部、関西方面から

特急しなの号利用「篠ノ井」で、しなの鉄道乗換、田中下車



地域の情報をラジオで発信！
エフエムとうみ 78.5MHz

Tune Now!
リクエスト、メッセージは
m@fmtomi785.jp

新規収蔵品 ～色彩の魔術師～

安藤信哉展



梅花

2019・2・15(金)～3・31(日)



2月17日(日) オープニング 13:30～

東御市梅野記念絵画館

〒389-0406 長野県東御市八重原935-1 TEL0268-61-6161 FAX0268-61-6162

年譜

- 1897年 千葉県夷隅郡東海村に安藤誠の次男として生れる。
- 1901年 父親の転勤のため茨城県水海道町(現常総市)に移転。
- 1915年 茨城県立水海道中学校卒業。
- 1918年 21歳で神奈川県横浜市にて小学校教員となり、以後横浜、東京の各小学校を歴任、1927年(S2)退職。
- 1920年 23歳で上京。葵橋研究所、研究所太平洋洋画研究所、本郷研究所、川画学校に通う。小林萬吾板倉賛治に師事し、水彩画を学ぶ。
- 1929年 32歳で第10回帝国美術展覧会。以降帝展に「友の像」初入選。以後帝展に37歳まで連続入選する。
- 1936年 臨時文部省美術展覧会文展に「裸婦」入選。
- 1937年 グループ四元荘第1回展出品、以降6回展まで出品
- 1938年 第2回文展「画室にて」特選受賞。
- 1939年 文展無鑑査。「裸婦」出品。
- 1940年 紀元2600年奉祝文展入選。国立東京ろうあ学校(現筑波大学付属ろう学校)に奉職。
- 1941年 文展無鑑査に推薦。以後隔年出品。
- 1947年 創元会会員となる。以後1962年(S37)退会まで毎年出品する。
- 1948年 第4回日本美術展覧会(以降日展とする)入選。
- 1951年 日本水彩画会会員推挙される。以降1983年(S58)まで毎年出品。
- 1957年 60歳で日展審査員となる。東京教育大学教授となる。
- 1958年 第1回日展より日展会員となる。
- 1960年 グループ十柯会第1回展出品。
- 1962年 ヨーロッパ外遊する。創元会退会。
- 1963年 東京教育大学教授定年退官。
- 1968年 第11回日展出品。日展評議員となる。
- 1969年 日展改組。第1回展出品。以降第14回展まで出品。
- 1974年 ヘレンケラー賞受賞。日展参与となる。
- 1975年 東京教育大学付属ろう学校講師となる。
- 1982年 心筋梗塞にて入院。
- 1983年 85歳で死去。第15回日展「一隅」遺作出品。



1920年 鳥



1930年 若い妻の顔



1940年 朝鮮風景



卓上静物



妻の顔と毛布



1937～38年 横臥裸婦



静物



散策



1957年 裸婦



裸婦1